

令和元年度 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1.創立 37 年の歴史と伝統を受け継ぎ、「建学の精神四訓」のもと、将来我が国の有益な社会の形成者、また、世界にはばたくグローバルリーダーを輩出する。
- 2.生徒一人ひとりを大切に、学問に対する興味・関心を深める授業を行い、生き生きと学ぶ喜びを知ることのできる教育を進める。
- 3.生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、「高いレベルの文武両道」の文化を根付かせ、学校行事や委員会・部活動等へ積極的に参加し、自らの意志と努力で中学高校生活の創造を目指す。
- 4.生徒の能力・適性を伸ばし、進路選択を支援するとともに、教師自身が課題に取り組み、指導力・専門的知識の向上に努める。

2 中期的目標

(1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善

文武両道の進学校として成果をあげ責務を果たすためには、生徒が目標に向かって主体的・意欲的に取り組み、学習の理解度・達成度を深めることが重要となる。そのため授業改善を進め、「教師依存型から生徒自立型へ」「大学進学へ向けた授業レベル向上」の意識改革を行う。また、高大接続改革に関する情報収集に努め、計画的に適切な対策を講じる。学習だけでなく、行事や教員研修まで含めてカリキュラムマネジメントを進めていく。

- ① 公開授業・参観、研究授業等を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。(研究)
- ② 教材を精選し、進学情報リテラシー・キャリア教育の視点を取り入れ、ティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。(進路・研究)
- ③ 2022 年度からの新学習指導要領に向けて、探究学習、アクティブ・ラーニング、アダプティブ・ラーニングおよびその評価方法やポートフォリオの活用方法について、本校の進むべき方向性を明確にし、各分掌・教科と連携し、具現化を図る。(ESD プロジェクト)
- ④ 高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストに関して、生徒・保護者への情報の十分な提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。(進路・教務)
- ⑤ ICTを活用した授業の充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、ICT化に伴う諸問題に対応できるよう生徒の実態を把握し、情報モラルを育成する。(ICT委員会・生徒指導部)
- ⑥ 教育のICT化、インフラ整備や教員・生徒の iPad 導入について、導入効果の検証手法の確立と具体的な検証を実施する。必要に応じて外部機関との連携も模索する。(ICT委員会)
- ⑦ 「英語力アップの 3 つの宣言」を受け、学校を上げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値(資格やスコア取得)を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。(教科)
- ⑧ 2 年後の大学入学共通テストで記述問題が要求される国語・数学・英語については、新傾向の問題を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため、低学年次からの指導に反映する。英語は 4 技能、特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、GTECでその効果を検証する。(教科)

(2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備

各学年の現状を的確に把握し、教科指導・学年経営の基軸設定と修正を行う。これまでの教育課程実施上の問題点を整理点検し改善を図るとともに、新学習指導要領への具体的な対応策を検討する。

- ① 学習において、思考力・判断力・表現力を醸成し、生徒が理解の上でどう使っていくかの観点のもとに教育課程の改善を図り、2022 年の新学習指導要領へ向けての準備を行う。(教務)
- ② 教科指導では、V-(4)-⑥に示された数値目標を達成するために、適切な授業内容・レベル・定期考査の難易度設定等の見直しを行う。(教科)
- ③ 塾等と密に情報交換をし、適宜新しい進路情報を得、それを教職員に周知するとともに、進路行事、補習等の年間行事に反映させる。(進路)

(3)東海大学、国公立・私立難関大学への従来以上の進学実績向上(進路)

進路指導部主導のもと、高い志を持たせて進学に臨ませる。「数値目標V-(4)-⑥」の達成に全力をあげる。

- ① 東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。
- ② 毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、センター試験、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。

(4)自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベルのスポーツ・文化活動の維持

生徒の学校生活を楽しく生き生きとしたものにするため、各クラブ・委員会などの環境を整える。

- ① 部活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮し、活動時間を保証し活動を改善する。(生徒)
- ② 平日、放課後、長期休業日に行う補習・補講・自習支援事業・講演会などの実施方法を改善工夫し、参加率向上を図る。(教務)

(5)生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実(PR)

生徒の定数確保に向け、応募等の広域化を推進するため、地域・保護者等からの本校の教育活動に対する意見を踏まえ、生徒募集等の組織的な取り組みを行う。

- ① 入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。
- ② 入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。
- ③ 学校ホームページ、学校通信などにおいてより的確な情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。
- ④ 保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。
- ⑤ 中等部受験者確保のため、塾訪問のあり方を見直し、全職員によるより積極的な募集活動を展開する。

(6)環境・安全・健康に配慮した学校づくり(健康推進室・安全衛生委員会)

生徒・教職員の心身の健康を維持・促進させるため、環境の整備を図る。

- ① 同窓会・後援会組織と連携して、学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。
- ② 防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価(学校評価)を行う。
- ③ 教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活を送れるようにする。
- ④ 教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。

(7)キャリア教育の充実(研究)

- ① キャリア教育プログラムを充実させ、「生きる力(主体性、コミュニケーション能力、協調性)」を養成する。
- ② 企業インターンワークを実施し、視野を拡大して社会のできごとを理解する力を育み、社会で求められる能力を身につける。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

中等部・高等学校生徒を対象にそれぞれ 35・36 項目の学校評価アンケートを実施した。また、中等部保護者・高等学校保護者を対象には 26 項目の評価アンケートをそれぞれ実施した。更に中等部教職員・高等学校教職員対象にはそれぞれ 42・44 の項目のアンケートを実施した。以下は、上記中間目標に符合する質問項目とその評価平均点(最高点 5.0)推移を示したものである。()内の数字は 2018 年度から 2019 年度への評点の変化を示している。

自己評価アンケートの結果と分析[生徒保護者対象:令和元年 12 月実施・教職員対象:令和 2 年 1 月実施]	学校評価委員会からの意見
<p>(1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)授業に対して意欲的に取り組んでいる。(2018:3.5→2019:3.7) 授業を通して学力が向上している。(3.5→3.6) 学習面について、よく指導・サポートされている。(3.6→3.6) ・(高)授業に対して意欲的に取り組んでいる。(3.5→3.6) 授業を通して学力が向上している。(3.3→3.4) 学習面について、よく指導・サポートされている。(3.5→3.5) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)子どもは、家庭学習記録に関して、学習記録帳・iPad を活用している。(3.1→3.1) ・(高)子どもは、授業を通して学力が向上している。(3.3→3.3) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)教員は授業に関して創意工夫(教育のICT化等)を行なっている。(3.7→3.9) ・(高)教員は生徒の学習意欲向上の為の工夫・努力を行っている。(3.5→3.7) <p>【分析】生徒は中高共に授業や家庭学習について、概ね意欲的に取り組んでおり、学力向上の実感に結びついている。タブレット(iPad)を活用した授業の実践は中高ともに生徒、教員には評価されている。今後、家庭学習においてうまく使えるよう改善すると、保護者の評価も上がると考える。</p> <p>(2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)設備(パソコン・タブレット端末や冷暖房等)施設の教育環境に満足している。(3.9→4.1) ・(高)設備(パソコン・タブレット端末や冷暖房等)施設の教育環境に満足している。(3.7→3.8) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)仰星高校の教育内容(コース制・類型別)をよく理解している。(3.5→3.4) ・(高)学校の特色(コース制・類型別など)に満足している。(3.7→3.7) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)適正な教育課程や教育内容が生まれ、運用されている。英数特進(3.5→3.4)総合進学(3.6→3.7) ・(高)適正な教育課程や教育内容が生まれ、運用されている。英数特進(3.4→3.6)総合進学(3.4→3.4) <p>【分析】2017 年度に人工芝グラウンドが完成し、ICT の環境も整ってきたことから、施設(校舎やグラウンドなど)や設備(PC・空調等の備品関係)に対する生徒、保護者の評価が高い。教育課程、教育内容についての教職員の評価は低くはないが、2022 年度からの新学習指導要領に向けて、再編していく必要がある。</p> <p>(3)東海大学、国公立・私立難関大学への進学実績の向上について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)東海大学についての情報がよく提供されている。(3.7→3.6) ・(高)進路に関する情報が十分に提供されている。(3.7→3.7) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)東海大学についての情報が十分に提供されている。(3.6→3.4) ・(高)東海大学についての情報が十分に提供されている。(3.8→3.8) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)仰星高校への進学指導ができています。(3.8→3.8) ・(高)生徒の適性に応じた進学指導ができています。英数特進(3.6→3.8)総合進学(3.4→3.6) <p>【分析】生徒の適性に応じた進学指導と進路に関する情報提供が概ねできていると考えられる。</p> <p>(4)自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.7→3.8) ・(高)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.4→3.6) <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.7→3.7) ・(高)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.8→3.8) <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(中)生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(4.2→4.4) ・(高)生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(3.7→3.7) <p>【分析】生徒・保護者・教職員とも本校が目指す「高いレベルの文武両道」の校風について、よく理解できていると考える。</p> <p>(5)生徒募集事業と広報推進のための各種事業の充実について</p>	<p>[第 1 回:令和 2 年 2 月 3 日]学校評価委員会での意見</p> <p>(1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高いレベルの文武両道を目指している本校において、授業、家庭学習への取り組みの充実、改善は最も大切な事項である。学習記録から生徒の普段の学習への姿勢、意欲を読み取り、指導に生かしていくべきである。 ・教員の授業力向上を目的とする「授業見学週間」を年 3 度実施している。他教科の授業を見学する良い機会なので、各教員の授業力向上にさらに生かせるよう、運用の改善について考えたい。 <p>(2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工芝グラウンドの完成により、施設(校舎やグラウンドなど)や設備(PC・空調等の備品関係)に対する生徒・保護者からの評価点が高くなったが、創立当時の校舎などは 36 年が経ち、経年劣化で安全面に注意する必要がある。順次メンテナンス工事を要する。 ・現在は 2022 年の新学習指導要領に向けて、本校独自の教育を行なえるように、教育課程、教育内容を改善していく準備段階にある。 <p>(3)東海大学、国公立・私立難関大学への実績向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性に応じた進学指導が概ねできているが、更に進路指導の工夫を行う余地はある。 ・中等部からの高校への内部進学者への指導を丁寧に行う必要があるのではないかと。 ・東海大学への内部進学を増やす為に、東海大学のメリットをより強く PR し、環境を整える必要がある。 <p>(4)自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動が活発に行われていることが、挨拶など、学校全体に良い影響を与えている。クラブ活動から文武両道の大切さを生徒に伝えていく必要がある。 <p>(6)環境・安全・健康に配慮した学校づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年の地震と台風の経験から、災害とその対策への意識が高まり、緊急連絡体制が確立されてきた。 <p>(7)キャリア教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 2 年生のキャリアデザイン、「企業インターワーク」では、生徒のグループワーク、プレゼンテーションの方法や内容に改善の余地がある。今後は探究学習の視野から、より内容の深いものへと進化させる方策を考えたい。 <p>[第 2 回:令和 2 年 2 月 22 日]学校関係者との合同学校評価委員会での意見</p> <p>① 保護者:中等部学校運営の「地域との連携強化」のポイントが前年度から 0.3 ポイン</p>

○保護者

- ・(中) ホームページ(Gyosei 日記 含む)、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(4.1→4.0)
- ・(高) ホームページ、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(3.6→3.6)

○教職員

- ・(中) 生徒募集の広報活動が上手く機能している。(4.0→4.3)
- ・(高) 生徒募集の広報活動が上手く機能している。(3.8→3.8)

【分析】生徒募集の広報活動について、中等部教員の評価が大きく上昇した。

(6)環境・安全・健康に配慮した学校づくりについて

○生徒

- ・(中) 学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(4.0→3.9)
- ・(高) 学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(3.5→3.8)

○保護者

- ・(中) 施設・設備等の教育環境に満足している。(3.5→3.6)
- ・(高) 施設・設備等の教育環境に満足している。(3.6→3.6)

○教職員

- ・(中) 事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている。(3.7→3.9)
- ・(高) 事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている。(3.6→3.7)

【分析】教員の災害に対する意識が高く、緊急連絡体制が確立されている。

(7)キャリア教育の充実について

○生徒

- ・(中) 特色ある教育(知的財産教育・総合的な学習の時間)が充実している。(3.9→3.9)
- ・(高) 特色ある教育(知的財産教育・高校現代文明論など)が充実している。(3.6→3.7)

○教職員

- ・(中) 総合的な学習の時間の内容が充実している。(3.7→3.6)
- ・(高) キャリア教育を含む独自科目「高校現代文明論」が生徒に理解されている。(3.2→3.2)

【分析】生徒と中等部教員の評価は比較的高いが、高校教職員による評価が低い。

(8)グローバル教育の推進について

○生徒

- ・(中) グローバル教育(研修旅行・海外研修・留学生の受け入れなど)が充実している。(4.1→4.0)
- ・(高) グローバル教育(研修旅行・海外研修・留学生の受け入れなど)が充実している。(3.8→3.8)

○保護者

- ・(中) グローバル教育(研修旅行・海外研修・留学生の受け入れなど)が充実している。(4.0→3.9)
- ・(高) グローバル教育(研修旅行・海外研修・留学生の受け入れなど)が充実している。(3.9→3.9)

○教職員

- ・(中) グローバル教育(研修旅行・海外研修・留学生の受け入れなど)が充実している。(4.1→4.0)
- ・(高) グローバル教育(研修旅行・海外研修・留学生の受け入れなど)が充実している。(3.8→3.8)

【分析】本校のグローバル教育のコンセプトは、社会や、世界に貢献できるグローバル人材になることで、英語でのコミュニケーション力のみならず、世界の理想を描くビジョン、多様性を受け入れる感性、自分の殻を破っている人たちと対峙するチャレンジ精神などのスキルを身に付けることである。そのために、生徒に留学・国際交流・国際協調を体験する機会・プログラムをさらに拡充させるとともに、語学力の習得意欲の向上、留学準備の早期着手を目指し、外国から本校への訪問を活性化させ、国際的な雰囲気づくりに努める姿勢と、その継続が評価されている。

ト減少しているのはなぜか。

学校:今年度は、桜丘小学校、桜丘中学校が本校講堂を使う行事がなかったため、理由は日程が合わなかったからであり、意図的なものではない。

② 保護者:「中高一貫性の確立」が低いのはなぜか。

学校:今年度は中等部から高校への進学率が減っている(昨年は85%、今年は77%)もともと母数が少ない学年だけに、余計に進学者が少ないことが際立った。しかし、個々それぞれに事情があり外部受験をしていく。

③ 保護者:中等部校務運営の「英数特進コースの特色充実」のポイントが下がっている原因は何か。

学校:総合進学と英数特進、本校の特色をしっかりと出していきたいという視点で、厳しく見ている所がポイントに反映しているのではないか。

学校:中等部英数特進の面談に、高校英数特進の教員が入り、コースの理解に努めている。

④ 保護者:iPadの中等部での使用率は高校に比べて少なくないか。高校は学習記録のやり取りをiPadでしていると聞いている。

学校:むしろ中等部の方が使っている。中等部の学習記録は、3年生はiPad、1、2年生は担任とのコミュニケーションを密にすることを目的に、紙でやり取りをしている。

校長:

・「中高一貫性の確立」のポイントが中高共に低いことが大きな課題であると捉えている。教員のチームワークも良く、部活動でも中高一貫の特色が出ている。どういうところを指しているのか、の議論も含め学校を挙げて課題として取り組んでいきたい。

・また「読書活動の推進」が高校で下がっているところも見逃せない。「朝の読書」の実施状況ももちろんだが、読んでいる本のジャンル、内容なども「How to 本」など、読書から離れていることも気になる。もう一度、読書について見直していく必要がある。メディアセンターなどから情報やの発信もしていきたい。

・部活動では、近年様々なクラブが力をつけてきている。さらに学習面でもしっかりと取り組み、学力も付けられるような学校にしていきたい。

・学校の中にいると、身近なもの、見えるものも見えなくなってくることもある。今後も保護者の方々には、学校の外から見た率直なご意見をいただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 学習指導における本質をつくり授業の創造と一層の充実改善</p>	<p>ア、公開授業・参観、研究授業等を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。</p> <p>イ、教材を精選し、進学情報リテラシー・キャリア教育の視点を取り入れ、ティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。</p> <p>ウ、高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストに関して、生徒・保護者への情報の十分な提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。</p> <p>エ、ICTを活用した授業の充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、ICT化に伴う諸問題に対応できるよう生徒の実態を把握し、情報モラルを育成する。</p> <p>オ、教育のICT化、インフラ整備や教員・生徒の iPad 導入について、導入効果の検証手法の確立と具体的な検証を実施する。必要に応じて外部機関との連携も模索する。</p> <p>カ、「英語力アップの3つの宣言」を受け、学校を上げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値(資格やスコア取得)を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。</p> <p>キ、2年後の大学入学共通テストで記述問題が要求される国語・数学・英語については、新傾向の問題を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため、低学年次からの指導に反映する。英語は4技能、特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、GTECでその効果を検証する。</p>	<p>ア、授業評価アンケートを活用したPDCAサイクルによる授業改善システムを確立させ、志望大学に合格させるため進度および学習到達度の見直しを行う。</p> <p>イ、生徒の学習活動改善及び教員の学習指導改善のため、学習ポータルサイトClassiの利活用を研究・推進する。特に生徒の学習活動を記録し、自らの学習のPDCAサイクルに乗せて改善できる力を養う。</p> <p>オ、ICT教育環境の整備に合わせ、視覚等に訴え、臨場感ある生徒参加型の授業(アクティブラーニング)を軸とする授業改善の研究と実践を進める。</p> <p>カ、センター試験6教科7科目以上で国公立大学合格者を出すため、科目毎の平均を全国平均の1.15倍以上にすることを目標とする。</p> <p>キ、各教科において定期試験・共通実力テストのレベルと妥当性を検討するとともに、外部模試の出題・誤答分析を行い、授業に還元する。</p>	<p>ア、JTによる評価点は3.0、STによる評価点は2.9であった。 学校の特色(コース制・中高一貫教育など)に満足している。”項目に対する評価点はJS:3.9、JP:3.9、また、SS:3.7、SP:3.7であった。</p> <p>イ、特色教育についての評価点はJS:3.9、SS:3.7、JT:3.7、ST:3.2であった。</p> <p>エ、評価点はJT:3.7、ST:3.9であった。</p> <p>※中等部生徒による評価点(JSと略)保護者によるものをJP、高校生徒による評価点(SSと略)保護者によるものをSP、中等部教員による評価点(JTと略)、高校教員による評価点(STと略) ※肯定的評価の基準は3.5以上とし、評点3.2~3.7は過去の評点の推移等を見て目標が達成されたかどうかを判断した。</p>	<p>ア、生徒・保護者による評価は、授業を含めて、概ね良好であると言えるが、高校でも3.8以上の評価を獲得できるように、尚一層努力することが、教員には求められる。 授業力向上のために、他教科の授業を見学することによって、別視点での意見交換ができて、授業力の向上は十分図られた。</p> <p>イ、キャリア教育については探究学習を視野に入れて現在、改善中である。今年度より高校1学年で実施している学習PDCAサイクルは生徒、保護者ともに好評である。</p> <p>エ、ICTの活用については情報科が中心となり、教員の校内、校外研修を実施し、授業改善につながっている。また多様化する情報機器に関する問題に対して、生徒の情報モラルを上げていく。</p>

<p>2 進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備</p>	<p>ア、学習において、思考力・判断力・表現力を醸成し、生徒が理解の上になど使っていくかの観点のもとに教育課程の改善を図り、2022 年の新学習指導要領へ向けての準備を行う。</p> <p>イ、教科指導では、数値目標を達成するために、適切な授業内容・レベル・定期考査の難易度設定等の見直しを行う。</p> <p>ウ、塾等と密に情報交換をし、適宜新しい進路情報を得、それを教職員に周知するとともに、進路行事、補習等の年間行事に反映させる。</p>	<p>ア、2022 年度新学習指導要領に向けて、ESDプロジェクトとの連携を図りながら、各種セミナーや学習会に参加し、他校の取り組みや計画を参考に十分な情報を収集し、教育課程の再編準備を行う。</p> <p>イ、習熟度別学習(特別講座を含む)の在り方や実施時期・時間の見直しを行い、特別講座への参加意欲を向上させるため内容・方法の改善充実に努める。また、高校では、学園基礎学力定着度試験等の共通試験に向けて十分な対策を行う</p>	<p>ア、グローバル教育についての評価点は、JT:4.0、ST:3.8 であった。</p> <p>イ、学習活動についての評価点は、JT:3.9、ST:3.7 であった。</p>	<p>ア、国際交流部が中心となり行っている、短期、中期留学、留学生の受け入れにより、校内にグローバル教育の雰囲気が高まっている。</p> <p>イ、引き続き生徒の学習意欲を向上させるよう、教育内容・方法の改善に努める。</p>
<p>3 東海大学、国公立・難関私立大学への進学実績の向上</p>	<p>ア、東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。</p> <p>イ、毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、センター試験、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。</p>	<p>ア、東海大学への進学者を増加させるため、体験学習の参加や大学各学部からの講師招聘を通じて、生徒の関心を高める適正な情報の提供を行う。また、教職員に対しても東海大学理解のための研修会・勉強会を実施する。一方、他大学進学希望者に対して、他大学見学会や各講演会等を活用して生徒の大学進学へのモチベーションを高める。</p> <p>イ、全学年において外部模試の結果を定期的に分析し、職員会議で周知する。その上で改善を要する点を各教科に発信するなど、PDCAサイクルに乗せて指導の適正化を図る。</p>	<p>ア、東海大学関連機関への訪問・実習に対する、評価点は SS:4.0、ST:3.5 であった。</p> <p>イ、進路に関する生徒、保護者の評価点は SS:3.7、SP:3.5 であった。</p>	<p>ア、高校 1 年生で行っている「高校現代文明論研修の旅」は大学付属校のメリットを十分に生かした行事である。生徒の進学への意識向上に繋がっていることから、生徒の評価が高い。プログラムのより一層の充実に向けて、更に改良できる点がないか、担当分掌で検討がしていく。</p> <p>イ、進学ガイダンスや進路LHR が、コースやクラスの適性に応じた進学指導体制の下で実行できていると判断する。</p>

<p>4 自律的・生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持</p>	<p>ア、部活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮し、活動時間を保証し活動を改善する。</p> <p>イ、平日、放課後、長期休業日に行う補習・補講・自習支援事業・講演会などの実施方法を改善工夫し、参加率向上を図る。</p>	<p>アイ、クラブ活動と学習の両立を確立させるため、顧問は生徒の成績を常に把握しておく。また、クラブ活動と学習の両立を円滑にするため、顧問会議を定例化し時間の有効利用を指導する。</p> <p>自学自習時間確保のため、クラブ活動日・時間等を検討する。</p>	<p>アイ、生活習慣に関する評価点は JT:4.2、ST:3.7、JS:4.3、JP:4.1、SS:4.1、SP:4.3 であった。</p> <p>学習記録帳に関する評価点は、JS:3.4、JP:3.1、SS:3.2、SP:3.3 であった。</p> <p>クラブ活動に関する評価点は JT:4.6、ST:4.5、JS:4.3、JP:3.9、SS:4.1、SP:3.9 であった。</p>	<p>ア、勉強と部活動の両立が校風なので、挨拶や掃除など、基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く、それが学校全体に良い影響を与えている。生徒、保護者、教員ともにその意識と自負が高いことも特徴に挙げられる。</p> <p>クラブ顧問、主将会議を開催し、生活習慣を見直させることが出来た。常に生活習慣・姿勢について考えさせる必要がある。</p>
<p>5 生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実</p>	<p>ア、入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。</p> <p>イ、入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。</p> <p>ウ、学校ホームページ、学校通信などにおいてよりの確かな情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。</p> <p>エ、保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。</p> <p>オ、中等部受験者確保のため、塾訪問のあり方を見直し、全教員によるより積極的な募集活動を展開する。</p>	<p>アイ、本校の存在意義(ミッション)、学校運営方針、教育活動の現状等を内外に周知するため、学校見学会や説明会の計画的実施を見直し、外部情報媒体、学校ホームページにそれらを掲載する。PR室と各分掌が連携して体験授業(オープンスクール)や本校問題解説会を充実させ、小・中学生が期待する学習内容・方法等を発信する。</p> <p>ウ、東海大学付属である本校の特色を速かつ正確に伝えられるよう、ホームページ上で常に新しい情報を提供する。</p> <p>エ、夏期休業期間等を利用した教員・生徒による出身中学校訪問、及び近隣小・中学校への出張授業やボランティア活動を検討する。</p> <p>オ、中等部入試志願者の増加を図るため、北摂地区を重点地区と定め積極的に募集活動を行い、生徒獲得拡大をはかる。(学業及びスポーツ奨学生制度を有効活用する。また小中学生向けのスポーツ教室等の開催を検討する。</p>	<p>ア、評価点は JT:4.3、ST:3.8 であった。</p> <p>ウ、ホールページに関する保護者の評価点は JP:4.0、SP:3.6 であった。</p>	<p>ア、オープンスクールでの体験授業・クラブが小・中学生にとって大変満足度が高いものであった。</p> <p>PR イベントに対する教員の評価も良好である。</p> <p>ウ、ホームページ、広報誌「天の川」、学級通信の満足度も高いと判断できる。本校の特色をアピールできた。</p>
<p>6 環境・安全・健康に配慮した学校づくり</p>	<p>ア、同窓会・後援会組織と連携して、学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。</p> <p>イ、防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価(学校評価)を行う。</p> <p>ウ、教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活を送れるようにする。</p>	<p>イ、防災防犯計画・学校保健計画を策定し、その実施状況を外部評価(学校評価)で点検する。</p> <p>ウ、生徒の精神的な安定のため、カウンセラーと連携を密にし、教育相談機能を充実させる。</p>	<p>イ、“事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている”に対する今年度の評価点は JT:3.9、ST:3.7 であった。</p> <p>“保護者との連携(クラブ活動での連携も含む)がなされている。”項目に対する評価点は、JT:3.9、ST:3.6 であった。</p>	<p>イ、避難訓練等で防災意識をさらに高める。</p> <p>ウ、保護者の協力を得て、家庭と学校で生徒の成長をサポートする体制が確立されている。</p>

<p>7 キャリア教育の充実</p>	<p>ア、キャリア教育プログラムを充実させ、「生きる力(主体性、コミュニケーション能力、協調性)」を養成する。</p> <p>イ、企業インターワークを実施し、視野を拡大して社会のできごとを理解する力を育み、社会で求められる能力を身につける。</p>	<p>ア、・高校1年総合学習「現代文明論」の時間に“ダイアログ研修”を実施する。</p> <p>・高校現代文明論(キャリア教育が実施されている科目)が自己の生きる力を育てるものであることを認識させて、知的財産教育、ダイアログ研修、R-CAP検査等に取り組ませる。</p> <p>イ、・高校2年生の総合学習として“企業インターワーク”実習プログラムに取り組む。</p> <p>・生徒が企業インターワークに取り組むことにより、実社会で求められる資質を高める、職業に対する理解を深め視野を広げる、自ら探求する姿勢を養うことが出来るように、研究部と学年が協力して生徒をサポートする。</p>	<p>アイ、キャリア教育に対する評価点は、ST:3.2であった。</p>	<p>ア・イ、キャリア教育は本校教育の特色の一つとなっている。担任の自由度が高いプログラムだけに模索中の教員、または未経験の教員もいる。前年度との比較をし、反省点を検証し、探究学習に向けて改善に取り組んでいく。</p>
<p>8 グローバル教育の推進</p>	<p>ア、生徒に留学・国際交流・国際協力を体験する機会・プログラムをさらに拡充させるとともに、本校への外国からの訪問を活性化させ、国際的な雰囲気づくりに努める。</p> <p>イ、HTIC・RSGC等の海外連携機関との連携を強化する。</p>	<p>ア、生徒に留学・国際交流・国際協力を体験する機会・プログラムを充実させ、西方支援基金の活用を図りながら、本校への外国からの訪問を一活性化させ、国際的な雰囲気づくりに努める。</p> <p>イ、HTIC・RSGC等の海外連携機関との連携を強化する。</p>	<p>アイ、評価点は、JS:4.0、JP:3.9、SS:3.8、SP:3.9、JT:4.0、ST:3.8であった。</p>	<p>アイ、国際交流部を中心に様々なプログラムが生徒に提示されている。留学生も常に複数人いる状況で、グローバルな人間力を磨く環境が提供されている。</p>